

対キルギス共和国 国別開発協力方針

2022年4月

1. 当該国への開発協力のねらい

キルギスは、アジアと欧州、ロシアと中東を結ぶ地政学的に重要な地域に位置し、同国の安定的な発展は、地域の安定と発展にも寄与する。独立当初から我が国との友好的な関係が続いており、国際場裡での日本との協力にも前向きである。我が国は、キルギスを含む中央アジア諸国の自由で開かれた持続可能な発展を支えてきており、「中央アジア+日本」対話・第9回外相会合では、「人への投資」と「成長の質」に重点を置いた新たな成長モデル沿った協力を行っていくことを確認した。

キルギスは、石油・天然ガスといったエネルギー資源に乏しく、これらをロシア等からの輸入に依存している他、国内の開発に必要な資機材の殆どを国外からの輸入に頼っている。キルギスから他国への輸出品は、金精鉱、農畜産物など、加工度が低く付加価値の低いものが多く、同国の経済発展を牽引し得る基幹産業が育っていない。そのため、キルギスは、タジキスタンと並んで中央アジアの最貧国となっている。

また、その経済は、ロシア等への出稼ぎ労働者からの送金に大きく依存しており、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大やロシアによるウクライナ侵略を受けた、鉱物・農畜産物等の一次産品の価格変動などの影響を受けやすい。さらに同国は、教育、保健・医療等の社会インフラの老朽化、多額の対外累積債務等の課題も抱えている。

このような状況を踏まえ、我が国がキルギスに対して ODA を通じた協力をを行い同国の自由で開かれた持続可能な発展を支えることは、良好な二国間関係を維持発展させるのみならず、アフガニスタンを含む中央アジア地域全体の安定に寄与するものであると共に、持続可能な開発目標（SDGs）の実現の観点からも意義がある。

2. 我が国の ODA の基本方針（大目標）：持続的かつ均衡のとれた経済成長への支援

キルギスでは、ユーラシア経済同盟（EAEU）¹加盟等に伴う市場の拡大を受け、一方で新型コロナウイルス感染拡大やロシアの経済状況の悪化などの影響に対し、安定的な経済成長を確立するための体制整備が急務となっている。我が国としては、前述の援助の意義を踏まえ、経済成長の基盤となる産業育成とそれに伴う雇用創出の促進、並びに社会安定の基盤となる行政・社会サービスの向上を中心に、持続的かつ均衡のとれた経済発展に向けた支援を行い、キル

¹ 2015年1月発足。対外統一市場の形成、域内の人・モノ・サービスの自由を発展させることを目指す経済同盟が発足。現在の加盟国は、ベラルーシ、ロシア、カザフスタン、アルメニア及びキルギスの5か国。

ギスの自由で開かれた持続可能な発展を後押しする。なお、同支援の成果は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも寄与することから、これらの目標との整合性を考慮しつつ、事業を実施する。

3. 重点分野（中目標）

（1）産業育成と雇用の創出

キルギスが目指す高付加価値産業の育成及び雇用創出のため、日本の技術・経験・ノウハウを導入・活用し、同国の主要産業である農畜産品・農畜産加工品の輸出促進、新たな産業の振興・多角化、中小企業振興等を推進するとともに、人材育成やインフラ整備を含む産業育成のための環境整備を支援する。

（2）行政・社会サービスの向上

キルギス政府のガバナンス強化、政策立案・実施能力強化のため、政府の中核人材の育成をより戦略的に進めていく。持続的なマクロ経済運営のための支援も検討していく。また、教育、保健・医療等の社会インフラの老朽化に加え、新型コロナウイルス感染拡大により脆弱な保健・医療体制が露呈したため、キルギス側のニーズを踏まえつつ、保健・医療体制の強化を中心に社会サービス強化のための協力を進めていく。

4. 留意事項ⁱ

（1）中央アジアは、貧困、環境、防災、麻薬、国境管理、国際テロリズムなど一国のみでは容易に対処できない地域協力を必要とする課題を抱えている。「中央アジア＋日本」対話の枠組みを活用しつつ地域協力を促進し、アフガニスタンを含む中央アジア地域全体の安定及び発展を後押しするよう留意する。

（2）支援の検討に当たっては、キルギスの対外債務状況についても注視する。

（了）

ⁱ キルギスを対象として実施された過去の ODA 国別評価は次のとおり。
中央アジア 3 か国（カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン）国別評価（2012）
報告書掲載先：
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/gai/c_asia/kn11_01_index.html